

第7回東京2020オリンピック・パラリンピック
競技大会都立競技施設における
アクセシビリティ・ワークショップ議事録

日 時：平成30年6月25日（月）午後2時30分

会 場：東京スタジアム 会議室

午後2時30分開会

○上山事業調整担当課長 それでは、定刻になりましたので、第7回東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会都立競技施設におけるアクセシビリティ・ワークショップを開催させていただきます。

私は、事務局を担当させていただきます、東京都オリンピック・パラリンピック準備局パラリンピック部調整課事業調整担当課長の上山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の進め方ですが、まずこちらの会議室で資料による説明をさせていただきます。その内容を踏まえて実際に現地を視察いただきます。視察の終了後、こちらの会議室にお戻りいただきまして、皆様から御意見を頂戴してまいりたいと思います。

最初にお手元の配布資料の確認をさせていただきます。まず本日のワークショップの次第が1枚、おめくりいただきまして、出席者名簿、座席表、資料1「アクセシビリティ・ワークショップ実施スケジュール」、資料2「サイン計画の考え方」、こちらがA3で3枚ございます。最後に資料3「東京スタジアム現地視察ルート図」、こちらがA3で1枚ございます。以上になります。不足のものがございましたら、事務局にお申しつけいただければと思います。——よろしいでしょうか。

本日は、これから御説明するサインの考え方の説明、現地視察の際の指定の撮影場所及び視察後の意見交換をプレスの皆様にご公開いたしますので、あらかじめ御了承ください。

また、本日御出席いただいております委員の皆様につきましては、時間の関係からお手元に配布してございます出席者名簿をもって御紹介にかえさせていただきますので、御了承ください。

それでは、議事に入ります前に、本ワークショップの委員長から委員の皆様へ一言御挨拶させていただきます。

萱場委員長、よろしくお願いいたします。

○萱場委員長 本日は、お忙しい中、また2年後の本番を彷彿させる暑さの中お運びいただきまして、ありがとうございます。本ワークショップの委員長を引き続き務めてまいります、東京都オリンピック・パラリンピック準備局パラリンピック部長の萱場と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日のワークショップは、東京都が整備する11の新設・既存の大会競技施設のアクセシビリティの確保に向けて、委員の皆様から貴重な御意見をお伺いし、設計に生か

していくことを目的として設置されました。これまでに既に6回開催し、利用者の目線に立った数々の貴重な御意見を賜っております。

さて、本日の議題は、いよいよサイン計画でございます。施設を快適かつ安全に御利用いただくためには、わかりやすい案内サインの設置は大変重要でございます。特に障害のある方に対しては文字の大きさや色のコントラスト、車いすの位置から見やすい高さなど、さまざまな配慮が必要とされます。サインは競技施設で実際に確認しないとイメージしづらいというお声を頂戴いたしましたので、今回は現地視察を行い、実際に現場をご覧いただいた上で、いろいろな項目につきまして委員の皆様から御意見を頂戴したいと考えております。ご覧いただきますのはこの東京スタジアムではございますが、どの施設においても案内サインが同じルールでわかりやすく設置されるということを目指し、本日のこの議論を新設・既存施設の共通の考え方につなげて、都立競技施設のサイン計画として検討してまいりたいと考えております。

本日も長丁場になりますが、御指導、御協力を賜りますことをお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○上山事業調整担当課長 それでは、これから先の進行を萱場委員長にお願ひいたします。

○萱場委員長 では、早速でございますが、議事を進めてまいります。

本日は、説明に入る前に、まず本ワークショップのスケジュールについて説明させていただきます。

では、事務局、よろしくお願ひいたします。

○上山事業調整担当課長 それでは、事務局から本ワークショップのスケジュールについて簡単に御説明させていただきます。

お手元の資料1「アクセシビリティ・ワークショップ実施スケジュール」をご覧ください。

平成30年度第1四半期にあたるところに赤い印がございますが、この部分が本日のワークショップにあたります。記載してある番号は、それぞれの施設について意見交換を行ってきた回数となります。スケジュールにもございますとおり、新施設においても工事が進んできておりまして、今回のワークショップでは工事の進捗と並行して検討することとしておりましたサイン計画につきまして説明させていただきます。

本日いただいた意見を踏まえまして、2020年の会場となる都立競技施設のサイン計

画の考え方を決めていくこととなりますので、忌憚のない御意見をよろしくお願ひいたします。

説明は以上です。

○萱場委員長 それでは、これからサイン計画の基本的な考え方について委員の皆様へ御説明させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

担当の方、御説明をお願ひいたします。

○大谷施設整備担当 オリンピック・パラリンピック準備局大会施設部施設整備第一課の大谷と申します。よろしくお願ひいたします。私から、机上に配布しております資料2-1、2-2、2-3に沿って、サイン計画の考え方を御説明させていただきたいと思ひます。

まず資料2-1をご覧ください。こちらのモニターにも同じものを表示してございますので、適宜御確認さし上げながら進めたいと思ひます。

都立競技施設におけるサインでございますが、施設周辺や類似施設との整合や統一性に留意したものである必要があると考えてございます。このことから、都ではこれまで、T o k y o 2 0 2 0 アクセシビリティ・ガイドラインはもとより、国や都のバリアフリーにまつわる基準や駅などの既存事例を踏まえた上で検討を進めてまいりました。今回、この検討を経てサイン計画の考え方を取りまとめましたので、御説明させていただきます。

資料2-1の内容でございます。

まず、サイン計画のうち、配置、大きさ、書体など、場所や大きさなど配置にかかわる項目について1枚目に表示してございます。

資料上段、これに関しまして、T o k y o 2 0 2 0 アクセシビリティ・ガイドラインなどでは、「表示サインは、車いす使用者及び視覚障害者に見やすい位置に取り付ける必要がある」、「トイレなどの特定エリアを強調する表示サインは、人ごみの中でも視線が届きやすいよう、床面から2,500mmの高さで入口のドア上に取り付ける」、「シンボル、文字の大きさは、視距離に応じたものとする」、「ユニバーサル仕様のゴシック体を使うべき。欧文フォントの場合、標準的なサンセリフ体で、識別しやすい大文字・小文字」との記載がございます。

これまでのワークショップにおきましては、現地視察におきまして、「エレベーターの場所がわかりづらい上、文字も小さい」、「座席の位置がわかりやすいサイン計画をお願ひしたい」、「近くで見るものと遠くで見るものと、それぞれ見やすいよう計画してほし

い」との意見をいただきました。

これらを踏まえまして、次のとおり、配置、大きさ、書体にかかわるサイン計画の考え方を取りまとめました。

4点ほどございますが、まず第1点、建物外から座席やトイレまで円滑に移動できるよう、連続性をもって設置いたします。この際、壁面サインも併用し、高齢者や車いす利用者の方など低い目線の連続性にも配慮してまいります。

2点目でございますが、立ちどまって見る総合案内図などのサイン、進行方向から見づらい場所にやむを得ず表示する壁面サインなどの文字などの大きさは、大規模ターミナル駅などで採用されている、「見やすく分かりやすい交通拠点のサイン計画の手引き」を準用いたします。これにより、資料右下に表示してございますように、ガイドラインよりも一回り大きい文字サイズとなります。資料右下を御確認いただければと思います。上段がアクセシビリティ・ガイドラインの文字サイズとして表示したもの、下段がただいま御提示さし上げました「見やすく分かりやすい交通拠点のサイン計画の手引き」の文字サイズとなっております。

3点目でございます。書体の選定に際しては、弱視などさまざまな方にとって見やすいフォントを選定いたします。これも具体的には、資料右下に提示させていただいていますように、アクセシビリティ・ガイドラインで例示された書体、UD新ゴ、Arialなどに加えまして、駅や既存施設などで広く利用されて定着している書体であれば見やすいと受け入れられている実績があるものと考えまして、選択肢に含めてまいりたいと思います。

最後に視覚障害者の誘導に関する考え方でございますが、誘導ブロック、触地図と接遇等の運営対応を組み合わせることとしてございます。具体的には、誘導ブロックは受付など人がいる場所まで設置することといたしまして、以降、建物に入るところから運営による誘導を想定して設計いたします。

実際の施設ごとの敷設場所につきましては、公園など周辺施設もございますので、こちらの考え方も踏まえながら計画してまいりたいと考えてございます。

以上、1ページ目の御説明でございました。

おめくりいただきまして、右肩に「資料2-2」と記載がございます資料を御確認ください。

次に、サイン計画のうち、多言語対応、ピクトグラム、色彩といった表示内容にかかわる考え方について、こちらのページで御説明さし上げたいと思います。

こちらに關しまして、T o k y o 2 0 2 0 アクセシビリティ・ガイドライン等では、「どのような表示サインにも国際的に認められたシンボルの利用が望ましい」、「文字やシンボルには、表示サインの背景色とコントラストのはっきりした色彩を用いる。背景色は単色が望ましい」、「人々を誘導するため通路に沿って掲示される道案内の位置表示サインは、同一経路内では、同じ色彩と触感にし、さらに同じ位置に取り付けるようにするのが望ましい」との記載がございます。

これまでのワークショップでは、「トイレは誰が優先という表示は要らず、備わっている機能のピクトを簡潔に表示」、「男女共用トイレのマーク等は工夫が必要」、「休憩室、休憩コーナーは、誰でも使える休憩所と勘違いされないような表示を」、「トイレ表示を赤→女、青→男という色の暗黙知だけに頼るのはよくない」との御意見をいただきました。

これらを踏まえ、次のとおり、多言語対応、ピクトグラム、色彩にかかわるサイン計画の考え方を取りまとめました。5点ほどございます。

まず表示言語については、東京都の多言語対応協議会が定める「多言語対応の基本的な考え方」を踏まえ、日本語、英語、ピクトグラムにより表示することといたします。

英訳に際しては、東京都で策定した「国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針」を準用することで周辺の英語表示との整合を図ります。

また、ピクトグラムについては、国内で統一された規格であり広く用いられている J I S 基準を採用いたします。例えば、左下でございますような男子トイレ、女子トイレ、車いす対応トイレなどがこれに該当いたします。なお、施設で用いる英訳やピクトグラムの中には、例えば J I S 基準に定めのない男女共用トイレのピクトグラムなど、指針や基準に定めがないものがありますが、これについては、I S O など J I S 以外の基準や既存施設における検討の事例を踏まえ、広く用いられているものを採用していくことを考えています。

それから、トイレと更衣室の場所を示すピクトグラムといった、男女の分けがあり、形が類似して混同のおそれがあるものには色や文字を用いることといたします。色は、既存施設の状況を踏まえ各施設で同じ配色といたしますが、具体的には、左下にあるように、男は青、女は赤、車いすなどの多機能を有するものは緑といたします。これは、駅など広く採用されている配色と揃えることで、家から施設までの経路内でトイレの色が異なるといった事態を避けるためでございます。

最後に、色の検討に際しましては、周辺色とのコントラストは明度差5以上とし、文字

やピクトグラムが認識しやすいように留意していきます。あわせて、色の選定に際しましては、右下にございますように、赤を認識しにくいと言われるP型色覚者、緑を認識しにくいと言われるD型色覚者の方がご覧になっても隣り合う色が違って見えるように配色するなど、色弱者の方にも配慮した配色といたします。

2ページ目の御説明は以上でございます。

最後に御用意いたしました、右肩に「資料2-3」と書いてございます、サイン誘導のイメージという資料でございます。

こちらにつきましては、これまで御説明したサイン計画の考え方の内容を、実際の競技場内の動きに照らしてどこにあらわれているかをイメージで表示したものでございます。共通事項として、ガイドラインに例示のあるフォントや駅などで広く利用されているフォントを使うこと、言語は日・英・ピクトグラムとすること、英訳については先ほど御紹介さし上げた東京都産業労働局指針に準拠すること、明度差5以上、色弱者に配慮した配色とすることとした上で、例えば1番のエントランスをご覧いただきますと、入ってきて一番最初に御確認いただきますサインが総合案内板で、こういったところには大きい文字サイズを使うことといたします。また、行き先表示板など壁面サインも同じでございますが、進行方向に向かず動きながら見るようなサインには大きい文字サイズを使うことといたします。

また、動きながら見る壁面サインの中には低い目線にも対応したものを設けます。それから、壁面サイン、天吊サイン、コンコース・通路を移動しながら見るサインにつきましては、次のサインがどこにあるか分かるように連続して配置することで進みながら不安になることがないように計画してまいります。

資料下段の3番のトイレ、客席入口をご覧ください。トイレ入口でございますが、男子、女子、車いすなどのピクトグラムには着色いたします。着色の下に日本語、英語で文字表示も行ってございます。トイレに入った内側の壁面にも、ピクトグラムで用いた色と同じような色を使うように配慮いたします。また、新規施設中心でございますが、入口には音声案内を設けますし、入口には触地図なども設けます。こういったところで、手すり、ベビーシート、フィッティングボードなど、こちらの施設で各機能がトイレの便房の中どこに備わっているかを御紹介さし上げるような機能を持たせることを考えてございます。

それから、客席入口の表示サインや観客席エリアに入ってから進行方向に向かないサインについても、同様に大きい文字やピクトグラムのサイズで表示いたします。

これらはあくまでイメージで、各施設のサインがこの通りになるものではありませんが、大きな考え方については共通して設計に反映するものでございます。今後はこのサイン計画の考え方を各施設の設計工事に反映してまいります。

なお、既存施設においては壁面の余剰スペースやイベント時の仮設対応などが施設ごとに異なりますので、ここで御説明したサイン計画を基本といたしますが、施設の個別事情も考慮しながら個々のサインを計画してまいります。

サイン計画に関する説明は以上になりますが、関連してこれまでのワークショップにおいて主な論点としていたものうち考え方をお話ししてこなかった集団補聴設備と大型スクリーンについて最後に御説明を加えさせていただいて終わりたいと思います。

まず集団補聴設備ですが、方式は固定式を原則としつつ、既存施設で改修が困難などの場合、FM方式による補聴設備も採用いたします。配置は、利用頻度や競技特性を勘案しつつ、水平・垂直方向への分散配置にも配慮してまいります。

次に大型スクリーンですが、全ての観客席から明瞭に見られるよう、設置できる位置や箇所数を確保いたします。スペースや設備については、文字などが認識できるような装置の大きさを考慮して計画いたします。

私からの説明は以上です。

○上山事業調整担当課長 資料による説明は以上をもって終了いたします。

これから現地を視察いただきますが、その前に、今御説明させていただきましたサイン計画の考え方に基づいた実寸大のサインをこちらの部屋の外のエントランスに御用意いたしましたので、まず実際の大きさを御確認をいただければと思います。また、その実寸大のサインを御確認いただいた後はそのまま東京スタジアムの視察に移りますので、貴重品はお持ちになって御移動いただければと思います。

それでは、移動ですけれども、まず先にプレスの方から御移動をお願いできますでしょうか。

○川内委員 どの程度まで写真撮影はできますか。

○上山事業調整担当課長 写真は大丈夫です。

それでは、委員の方々も御移動をお願いします。現地視察を行いますので、資料3の現地視察ルート図をお持ちいただければと思います。

現 地 視 察

○上山事業調整担当課長 それでは、皆様お揃いのようなので、御案内した時間より少し早いのですが、始めさせていただいてよろしいでしょうか。

皆様、長時間にわたる現地視察、どうもお疲れさまでございました。

これより本日の視察の意見交換の時間とさせていただきます。現地視察の際、職員が参考にメモをとって机上に配布させていただいておりますので、もしよろしければ御活用いただきながら御意見をいただければと思います。

それでは、御意見、御質問のある方は挙手をしていただきまして、お名前と御所属をおっしゃっていただいた上で御発言いただくようお願いいたします。

○笹川委員 一通り見させていただいて、とにかくあいた口が塞がらない。全然視覚障害者に配慮していないです。頭から視覚障害者が来ないだろうという想定のもとでつくられたとしか思えない。今から改修できるのでしょうか。

例えば、ブロックが全く基準に合っていません。皆様お気づきだと思うけれども、一般道路に引かれているのは誘導ブロックという線のブロックと場所を示す点のブロックの組み合わせで私たちは場所を確認しながら歩いています。ここのブロックはどちらにも該当しない、いわゆる規格外のブロックです。そして、そのブロックがどこへ向かっているのか、全然音声案内がないから、ブロックに乗ってもそのまま立ってなければいけない。全然行き先がわかりません。今日ぐるっと回った中で音声案内があった場所は1カ所もない。つまり、視覚障害者は来ないものとしてつくられているとしか思えません。これで会員にぜひ味の素スタジアムに行ってくれと言っても、私たちは責任が持てません。果たして大会までにどこまで整備できるのか、この辺を詳細に渡って検討してもらいたい。

以上、お願いします。

○恵美奈委員 オリンピック・パラリンピック準備局大会施設部で施設整備第二課長をしております恵美奈と申します。

本日御案内させていただきましたけれども、東京スタジアムにつきましてはこれからオリンピック・パラリンピックに向けた工事に入っていくという段階でございます。実際に

はこれから工事も第一期工事、第二期工事という形で分けてやる予定でございます、今日いろいろ御意見をいただいた部分はこれから第二期工事の中で設計に入って検討していく形になりますので、そういった中で反映していくのかなと思っております。

○河野建築技術担当 私、同じく施設整備第二課の建築の課長代理をしています河野と申します。

点状ブロックと線状ブロックについては確かにJ I S規格外で、踏んでもどちらだか分からないようなものになっていることはこちらでも把握してございますので、そちらについてはJ I S規格に合ったものに変更していくということを今後の改修設計で検討していく予定になっております。

音声案内につきましてはまだ詳細な検討が詰め切れておりませんので、今後開始する第二期として行っていく改修工事でどこまでできるかは今後の検討とさせていただきます。

○笹川委員 音声案内ですけれども、もう50年も前に、視覚障害者が送信機を持っていて、必要なところに置かれている音声をその送信機を使って確認するというシステムがあります。これは一般的に使われているのですけれども、常時音声が出ているということになると一般の方々に迷惑ですから、必要なときに音声が出る。そういう設備がありますので、ぜひそれを導入してもらいたい。しかも日常生活用具に指定されていますので、非常に好都合ですから、ぜひお願いします。

○河野建築技術担当 そちらも含めて、音声案内については今後の改修設計に向けて検討してまいります。

○上山事業調整担当課長 他に御意見のある方、いらっしゃいますでしょうか。

○越智委員 東京都聴覚障害者連盟の越智といいます。

サインについてですけれども、最初の総合案内の図ですけれども、平面といいますか立体に近い描き方といいますか、ピクト何とかと書いてありますが、それが斜めになっていて潰れたようになっていきますね。紹介は立体式になっておりまして、その2つのサインのイメージが違うので、普通の人ならわかると思うのですが、知的障害者とか意識障害の方はわかりにくいと思うのです。文字も小さいので、数字の場合は白抜きではなくて普通の黒い文字のほうがわかりやすいと思います。

あとはトイレのマークですが、普通の白地に青と白地に縁取りがありましたが、普通の白地に青のほうがわかりやすいと思いました。Aのところを通ったときに、実は私、先月勘違いしてこちらに参りました。そのときに駅から歩いていてまず見たのが、Aの手前に

ある、駅から来ますと階段を上ったところに案内所がありますよね。それがわかりにくかったのです。そのために場所を間違えまして、30分間右往左往してしまいました。その手前の文字もわかりやすい工夫が必要かなと思います。

総合案内のAの案内所ですけれども、本番のときはいろいろと総合的な案内をやる場所があると思いましたが、本部から離れているので、例えば視覚障害者ではなくて外国人がいらして通訳が必要なきには不便かなと思います。そのあたりは遠隔通訳ができるようなタブレットを置くのもいいのかなと思いました。

視察途中のトイレですが、車いす専用のトイレを見せていただきましたが、非常用のパトライトみたいなものがなかったですね。そこで、聞こえない人がトイレに入っていて、時間がかかってしまって非常事態が起きたときには聞こえないですから、逃げ遅れる心配があります。できれば改修のときには、まずトイレに非常のときに光というか見てわかるようなものを設置してほしいと思います。

あとは、参考までにお話ししたいのが、スポーツイベントのときで、ここは国体、肢体障害者のスポーツ大会の開会式・閉会式の場所になりますよね。私は情報保障として5日間毎日ここに参りました。そのときに感じたことは、夕日が沈むときに、客席と屋根の間にガラスがありましたね。あそこに夕日がかかる。時間にすると10分ぐらいだと思いますが、東側のスクリーンに直接夕日が当たりました。ですから、とても見にくくなってしまいました。そのあたりも日が落ちるときにスクリーンを使うときに注意が必要かと思います。

以上です。

○上山事業調整担当課長 ありがとうございます。サインに関する御意見とそれ以外の御意見とございましたが、事務局で何かお答えすることはありますでしょうか。——そうしましたら、いただいた御意見で、サインに関しては反映を検討させていただきたいと思います。

それから、遠隔通訳のタブレットを置くこと、それからスポーツ祭のときの夕日のまぶしさのお話等につきましては、大会時または大会後のイベント開催時の運用のお話になりますので、こちらでしっかりと受けとめまして、それぞれの担当の部署にお伝えさせていただきたいと思います。

○越智委員 よろしくお願いたします。

○上山事業調整担当課長 ほかに御意見、御質問のある方、いらっしゃいますでしょうか。

○市橋委員 市橋です。

まず伺いたいのは、国際基準、パラリンピック基準に合わせてどのぐらい改修する気があるのかどうかとか、もし改修するなら、中間報告的なものを何回か重ねていただきたいと思います。

それから、今日も見せていただいたのですが、僕は年に5回ぐらいFC東京で来るのですが、ああいうイベントは、26,000人はいるのかな。入るときにもう一回、みんなで来るのは無理かもしれないけれども、何人か来て意見交換をやったほうがいいのではないかと。例えばいい例は、エントランスの入口の前、メインゲートの前には、今、FC東京がやるときにもセキュリティを設けているのです。そのセキュリティチェックで並んでしまうわけです。入るのに30分ぐらいかかってしまう。しかもそのためのテントがあって、そこら辺のところを見ないといけないし、セキュリティの問題は今より厳しくなることはあっても緩まることはないだろうということで、そこら辺を解決できるようにやらないと、がらっと様子が変わってしまうということがあるのではないかと思います。

それから、総合案内所が、僕も何回か来たけれども、あそこにあったと今日初めて気がついた。総合案内所は、僕らだけではなく、例えば外国から来た人なんていうのは寄る可能性が多いわけですね。だから、あそこは周りと色を変えて、例えば黄色いビルにするとか、そういうことが必要かなと今日思いました。

それから、メインゲートに行く橋を上がるときに、階段で行くとか、エレベーターで行くとか、さまざまな動きがあると思って、総合案内は、ここにあるよということはわかっても、どう動けばいいかというのがわからないところがあると思います。

それから、こういうところは、「入口」と書いてあるGみたいな入口、そのマークを青でやったり、ピンクでやったり。ただ、あれが入口の番号だということが意外とわかりにくいのではないかと。あそこは何かつけたほうがいいのではないかと。可能ならば、切符とゲート入口、席なんかは順番が書いてあるのだろうけれども、色も統一をつけてわかりやすくすることが必要ではないかと思います。国立競技場にラグビーを見に行くと、国立競技場を2周回ってしまったというばかなことが、こちらも悪いのかもしれないけど、あるので、そこら辺をもっと考えてほしい。

あとは、観客が多くなればFC東京の場合もそうだけれども、セキュリティや案内で人が立っているわけですね。FC東京の悪口を言っはいけないけれども、あの人たちが

全体図と入口をわかっていないと。要するにそういう制服みたいなのを着ている人はわかっているのだろうということがあるから、これは非常に重要なポイントになるのではないかと。「僕は警備だけです」みたいなことを言わせないような体制をとってもらいたい。

それから、中央に建っていた壁面のサイン、Dのところ建っていたサインは、あれはもうちょっと大きくしていいかなと思うし、もうちょっと高くないと見た時に言った通りその前にいろいろなテントや何かが建ってしまったりする場合があります。

○川内委員 市橋さん、今のはCですかDですか。

○市橋委員 これで言えば、コンコースとなっているDとE。

それから、例えばゲート番号で色分けしているなら、ゲートの前が同じ色ではなくて、ゲートの入口の色も変えてしまってやるなんていうほうがこういうところはいいのではないかと思います。

それから、いすの後ろについている番号が非常に見にくいので、あれは全部変えたほうがいいのではないかと思います。

あとは、先ほど夕日のことを言われたけれども、あのスクリーン自体小さいですよ。もうちょっと大きくしたほうがいいのではないかと。お金の問題でできないかもしれないけれども。

そんなことを感じました。

○上山事業調整担当課長 ありがとうございます。いろいろな意見をいただきましたけれども、サインに関しては、総合案内所の場所がわかりにくいので色を変えたほうが良いということと、突き出しサインの番号が入口の番号かどうかわかりにくいということとか、ゲート番号が一目で認識できるようにとか、さまざまな御意見をいただきましたので、今後のサインの改修の計画への反映を検討させていただければと思います。

それから、最初に御意見をいただきました、パラリンピックの国際基準に合わせてどのぐらい改修するのかという部分については、アクセシビリティ・ガイドラインへの対応の状況ということによろしかったですでしょうか。

○市橋委員 はい。

○上山事業調整担当課長 事務局で何かお答えできることはございますか。

市橋さん、味スタの改修の内容でよろしいですか。

○市橋委員 味スタについては、先ほど笹川さんが言われたように、点字の問題も、そのほか幾つも合っていないという面が非常に多いと思うのです。ただ、合っていないのを一個

一個ここで言うのではなくて、どのぐらい改修の計画があって、それをどのぐらい僕らに教えてもらえるのか、そこら辺のところ。特に味スタとか東京体育館とか古いところをどう改修していくか。あれのマニュアルだって、僕らは2年ぐらいかかってつくったわけだから。

○恵美奈委員 施設整備二課長の恵美奈でございます。

基本的に既存施設は私どものところで担っております。今おっしゃったのはサインの関係かと思うのですが、東京スタジアム（味の素スタジアム）につきましては、今後、いただいた御意見を踏まえて二期工事の設計工事に入っていきますので、その中でどこまで反映できるかというところになってくると思います。

その他の施設についても、御意見をいただいた上でこれから工事に入りますので、サインの中で反映を検討していきたいと思っております。

○市橋委員 それに関して、僕らにここをこう変えようとかいう報告みたいなのはやってもらえますか。

○上山事業調整担当課長 ワークショップの今後のことなので、事務局の上山から現時点での状況をお話ししますと、新規・既存とも、御意見を頂戴して、一旦設計への反映を今検討しているところです。一般的にこうしますという考え方は、既存施設については昨年11月に一旦お示しさせていただいたところなので、それを個別の施設にどのように反映させていくのかというのは今まさに設計をこれからするところで、これから工事に入るところです。それをどういう形で皆様に御報告するかというのは、今日の段階ではまだ決めていないので、預らせていただいて報告の形は考えさせていただければと思います。

○市橋委員 なぜかという、今回オリンピック・パラリンピックを迎えて、こんなに障害者団体に集まって意見を言わせていただけたこと、これは大変前進だと思うのです。それがどう反映されたということは、オリンピック・パラリンピックに対しての都民の機会、特に僕ら障害者団体からきた人間が言えば、こういうことが変わって2020年を迎えるんだよという反映になるので、これは仲間たちによく知らせていく責任が僕らにはあると思うし、特に既存施設を変えたということを知らせることは、仲間たちにとっても前進面がきちんとわかると思うので、そこら辺は、一個一個ここを変えたというより、具体的に変えたところが幾つかわかるような報告みたいなのをさせていただければいいなと思って、御検討いただきたいと思っております。

○上山事業調整担当課長 ありがとうございます。提示の仕方につきましては今後の検討

とさせていただきますと思います。

あと、セキュリティ等に関する御意見もあったかと思うのですが、大会時の動線等も含めて混雑時どうするかというのは組織委員会で今検討しているところでして、この場ではお答えしにくいので、別途組織委員会に確認しながらお答えさせていただければと思います。

○市橋委員 行政と実際の施設が合っていないと困るわけで、そこら辺はきちんと行政の計画を早くさせながら施設も整備していく。特に案内表示や何かだとそれによって大きく左右される場合があるわけだから、そこら辺は早いうちから計画する必要があるのではないかと思います。

○上山事業調整担当課長 ありがとうございます。

そのほかに御意見、御質問のある方はいらっしゃいますか。

○永田委員 東京都手をつなぐ育成会の永田でございます。

私は知的障害の団体ですので、知的障害や発達障害の人たちがそこで迷ったり混乱したときにどうなのかという視点で今日は拝見いたしました。幾つか前後したり細かいこともあるかと思いますが、申し上げます。

まず、資料2-3でございます「サイン誘導のイメージ」で、一番最初にDのところで見せていただいたものですが、越智委員もおっしゃったのですが、総合案内板の奥行きのある1階、2階、3階、4階というのが見づらいといいますか、理解するのが難しいように思いました。特に小さいということもありまして、現在地が2階であればそこを特に大きく目立つように、今いる階を大きくするというのも1つかしらと思ったのと、ほかにはない機能をできるだけはっきり地図上にわかるように大きく示していただけるとありがたいと思いました。例えば、ここだと授乳室とか男女共用トイレができてくればそういうもの、ほかにあまりないもの、それから救護室、それは地図上にもうちょっと大きく、はっきり、サインと何があるかということを示していただきたいと思いました。外のEの場所でしたか、やはり地図があったのですが、それはこのように奥行きがあるのではなくて、平面上に上のほうが奥側で大きく示して、ちょっと丸くして。そういう形のほうが奥行きでこうやるよりはわかりやすいのかと思ったのですが、いずれにしても、こちらは奥行きのもの、こちらは平らなもの、場所によって違わないほうがいいのかしらと思いました。

せっかくこれを出していただいたのでついでですが、ここに文字で北の「N」と

かあったと思うのですが、そういうものの色と地図上の色のトーンとかが必ずしも一致していなかったような気がしまして、特にメインの青いところは、地図では青いけれども文字が白かったり、そういうところが混乱のもとになるので、どうせ色を違えるのであれば、そこはきちんと統一していただきたい。先ほど市橋委員もおっしゃったのですけれども、入口もその色を使うのであれば、そこがもうちょっと目立ってわかりやすくなればさらにいいかと思いました。

それから、もう一回資料2-3に戻りますけれども、吊るサイン、それから壁のサインで数字であらわすときに、これはたぶん知的障害、発達障害の方もそうだと思うのですけれども、ぱっと見たときに何を指しているのか全然わからないのです。まず「GATE」というのも小さいと思うのですけれども、例えば上から2段目で言いますと、「11-12・24-30」のハイフンとポチの意味が、このように等間隔で並んでいるとわけがわからなくなって、全体の意味がわからなくなるのです。でも、「11-12」と「24」の間をしっかりと離していただくことですぐわかる。ほんのちょっとしたことですけれども、「12」と「24」をしっかりと分けてポツを入れていただく。せつかく誘導するのであれば、視覚的に混乱させないような工夫をしていただきたいと思いました。簡単なことだと思いますので。この吊りのところも、この資料の「6-12・24-30・35-38」というのは、ただ数字がいっぱい並んでいて、本当にこれが何を指すのか、しかも「GATE」が小さいので、多分、発達障害の方には理解が難しいと思います。その辺のめり張りというか、濃淡のつけ方というか、間隔のとり方などを工夫していただけるとありがたいと思いました。

それから、先ほどから皆さんがおっしゃっていましたが、Aの総合案内がとにかく目立たないのはそのとおりです。サインも目立たないのですけれども、建物そのものもとても地味なので、そこをうっかり通り過ぎてしまうということがあると思うのですけれども、大切なのは、うっかり通り過ぎてしまったときに二度と戻れないのではなくて、この橋を渡っている途中で、もし一回見逃して人の流れに乗って入っていったとしても、案内はこちらだったと戻れるように、橋の上に案内はこちらに戻るといふサインのようなものがあると、中まで入ってしまう前に戻れるかしらと思いました。ちょっとしたことですけれども、そういうものがあると助かると思います。

それから、コンコースを歩いていて、上のところに会場への入口の数字があったと思うのです。ゲートのことだと思うのですけれども、「入口」・「入口」というのが左右にあ

りましたが、こちらの入口とこちらの入口でどこが本当の入口なのだろうと、お子さんとかが迷子になったときにわからなくなってしまうと思うのです。やはりメインゲートの入口はメインゲートとわかるように。メインゲートの入口とほかの小さい入口と同じように表示してあると、例えば入口で待っているからねと言ってもどこに行っていかわからなくなってしまうので、その辺の表示で入口の違いをしっかりと示していただけるとありがたいと思いました。

それから、先ほど青地に白と青に白枠というので、私も白地に青いほうがぱっと見たときには視覚的に見やすいと思ったのです。それは人もそうですけれども、人はどちらでもよかったのですが、黒いところに白抜きしたのは文字がとても読みづらいと思いました。そういう意味で白地のほうがわかりやすいと思います。

それから、Eだったと思うのですけれども、これも文字の表現の仕方で、「M-1～M-6」というのがあったと思います。これもぱっと見たときに何を指しているかわからないのですけれども、「の」というハイフンと「から」と、またハイフンの意味の違いがわからないので、それは「M1～6」だけで十分かと思うのです。とにかく余計なものを入れないでシンプルにさせていただいて、その分大きく目立つようにしていただくと知的障害や発達障害の人でもぱっと見てわかりやすいかしらと。参考にするため、探すために見るのに、見たことで混乱を起こすような情報はないようにしていただきたいと思いました。

それから、これはサインのことではないのですが、最初に笹川委員もおっしゃったのですけれども、とても出っ張りの多い建物で、本当にぶつかったり、危険が多いと感じました。そのときに、もちろん誘導ブロックの必要性もあるのでしょうけれども、例えば柱とか消火器、それからちょっと階段が出っ張っているというようなところは、何か目立つような色だけでも、何か出っ張っているというのが視覚的にぱっと目に入りやすいと、うっかりぶつかったりということも少ないのかと思いました。何しろ人混みの中でよく見えないうちで歩いて、ふと気がついたらぶつかるというようなことがないように安全に配慮していただきたいと思いました。そういうのは建物を変えなくても、誘導ブロックとか、色を変えるとか、何かの工夫で少しは安全になると思いました。

済みません、ごちゃごちゃ細かいことを申し上げましたけれども、以上です。

○上山事業調整担当課長 永田委員、ありがとうございました。

○大谷施設整備担当 先ほど越智さんからも同様の御指摘をいただきましたので、今後の参考になるアドバイスだと思って受けとめたいと思います。

こちらの総合案内板ですけれども、我々は今まで文字の大きさとか表示の高さに留意するようにということで、設計の人間なんかと工夫して斜めにすれば高さも押さえて大きくできるのではないとかいう議論もしてきましたけれども、わかりやすさという意味では平面のほうがいいという御指摘は受けとめたいと思っております。

それから、ピクトグラムも今後いろいろ決まってくるものも出てくると思うのですが、総合案内板中にも、館内のどこにでもあるような施設でない、男女共用トイレ、授乳室を初め特徴的な自分が目指すべきものはしっかり表示するようにというのは御意見としていただいて、検討していきたいと思っております。

それから、文字の大きさなどについても気をつけさせていただいて御提示さし上げたのですけれども、それはある程度皆様にも御確認いただけたかなとも思いますので、文字の大きさはそこまで小さく変えない範囲で、永田委員からいただいた表示の間隔、スペースなどもうまく使いながら、わかりやすい表示をさらに突き詰めていきたいと感じたところでございます。

資料2-3に関しての御指摘に対しては、今はこういった形でお答えしたいと思っておりますけれども、私からの資料2-3の今の時点でのお答えとしては以上でございます。

○上山事業調整担当課長　さまざまな貴重な御意見をいただきましたので、こちらで預からせていただいて、今後の設計の参考にさせていただきたいと思っております。

ほかに御意見、御質問のある方はいらっしゃいますか。

○川内委員　東洋大学の川内です。何となく流れとして言わなくてはいけないかなと。

一番最初のフォントがちょっと気になっているのです。今日は、先ほど永田さんが認知のほうでの印象ということをおっしゃっていたのですけれども、やはりロービジョンの方と色覚異常の方の検証は欠かせないだろうと思います。特にロービジョンの方、特にという言い方はおかしいけれども、ぼんやり見えているときに数字をほかの数字と間違ってしまうということはよくあることで、私が見た限りでは、今日使われていたフォントだと起こりそうかなという気がしているので、ロービジョンの方にそれで大丈夫だと言っただけであればそれでいいと思うのですけれども、その辺の検証をお願いしたい。

それから、上のコンコースを歩いていたときにトイレが途中にあって紹介されましたが、私は全く気がつかずに行きました。人がすごい量で動くところですので、歩く方向に直交したサインですね、突き出しサインとか吊り下げサイン、そういう動線の方向を意識したサインの掲出の仕方をかなりやらないと見落としてしまうかなという感じがしました。

それから、今スライドを出されていたのでついでに言いますけれども、スタジアムの降りていく階段の段鼻に鉾が打ってあるのです。あれが果たして有効なのかなという感じがしています。これですね。小さな鉾が打ってあります。今日幾つかの階段を見たのですが、段鼻の滑りどめのところに黄色の塗料を入れて黄色で表示しているところもありましたけれども、この鉾が果たして段鼻を示すのに有効かなというのは気になります。あそこはかなり人の出入りがあると思うので、目立つようなものにされたほうがいいのではないかと思います。

文字の大きさとかについては特にはないのですが、このスタジアムを歩くと、つかったときのサインでは足りなかったのでしょうか、後からつけたようなサインが幾つかありました。ですから、そういうものを見て、それから倣って、これは、上の筋交いのところのサインでは役に立たなかったのだからこういうことにしたのだらうと思うのです。ここまで大きくなくてもいいだらうという気もするのですが、そういう後でやったものはかなりいろいろなものを示していると思うので、その辺も含めて検討されたいと思います。

それから、今日は晴れた日だったのですけれども、当然夜ということもあるので、さまざまな状況でどう見えるかというのを常に頭の中に置いて検証されるべきだらうと思います。

○上山事業調整担当課長 ありがとうございます。

ほかに御意見、御質問のある方はいらっしゃいますか。

○木下委員 済みません、私も一言ぐらい発言しないとと思ひまして。

先ほど来、皆さんから、総合案内板の4階にわたる表示の斜めにとというのは平面のほうが見やすいというお話があったのですが、これは個人的なことかもしれないですが、今の2階の現在地というのが左に置かれているのですが、初めて行ったところでこういう図面を見たときに、現在地が手前というか正面にあって、その先に図面が広がるほうが見やすいのかなと思います。これだと、一旦自分の向きを横に向けた上で右左を判断されるのかどうなのか。済みません、個人的なことかもしれないですが、初めて行ったところだと、入った正面に現在地が書いてあって、そこから図面が広がっていくほうが景色として場所を把握する上でわかりやすいのかなと感じました。

余談ですが、実は今、多摩障害者スポーツセンターがこのスタジアムの一角に改修工事の仮住まいをしていて、私も前に勤務していたので、先ほどの休憩時間を使って

行って見たのです。どこかわからなかったのですけれども、最終的にはちょうど反対側の場所に仮住まいしていた。その外を歩いていくところで、途中で同じ図面がありまして、現在地と横にあるのですけれども、今日はこの図面あるいは中を見学させていただいて、この施設の中がこういう形をしているというのをわかった上で歩いていったのですけれども、初めてのところの図面としては正面のほうがわかりやすいかなと感じました。

あと、先ほど、総合案内板とか総合案内所の件が出ているのですけれども、どちらかという総合案内所とか総合案内板というのはサブ的な役割なのかなと感じていて、先ほど大谷さんの御説明でもありましたけれども、皆さん、まず自分の行きたいところがあるというのが一番重要だと思うのです。それでわからなくなると一旦総合案内板に戻るのかなと想像しました。行きたいところに行くということからすると、チケットの記載事項と案内表示が合致しているというのが一番大事だろうと思います。今日のところで言いますと、一番最初のBのメインゲートの手前、ここですとNは「北ゲート（N）」となっているのです。「（N）」ですけれども、想定チケットということでここに書いてあるものは「N」だけなので、そういう意味でも案内表示とチケットの表示が同一であれば目指すところに行きやすいのかなと感じました。

○上山事業調整担当課長 ありがとうございます。

それでは、あとお一方ぐらい、御意見、御質問のある方はいらっしゃいますか。

○高橋副委員長 東洋大学の高橋です。

既に皆さん方からたくさん御意見をいただいていますし、これから第二期工事の課題ということがありますけれども、最初に笹川さんがお話しになっていた音声案内は、今日いただいているマップから見ると、正解はなかなか難しいのですけれども、少なくともCのところ、ピンクですけれども、そこには音声案内が必須になると感じています。

あとは、私が視覚障害者関係で少し気になったのは、座席の列ぐらいはどこかで点字ないし浮き彫りで表示しておくほうが安心感が出てくるのではないかという感じがします。全座席という方法をやっている事例もありますけれども、全体の予算の問題とかいろいろありますが、このあたりはどこかで再度御検討してもよろしいのではないかと思います。

それから、聴覚障害者関係ですと、今日の説明ではなかったのですが、難聴者向けの磁気ループ席をどうするかということ、既に検討されているのかもしれませんが、このあたりは越智委員とも調整をされたほうがよろしいのではないかと思います。

それから、越智委員と永田委員にも関係しますが、なかなかハード面だけでは解決しな

い部分が多いので、先ほどのチケットの問題とか、管理主体としてさまざまな主催者にどう伝えていくかという仕組みも、これからの公共的施設のモデルになるようにハード面とソフト面の連携のあり方とか、人をどこまでやるのか、先ほど戻れるサインというお話がありましたけれども、これをどこまでやるのかということもあるので、そういう人的な配置の問題などを含めた対応についてこの機会に御検討されるといいのではないかと思います。遠隔通訳、手話通訳なんかのタブレットについても、主催者側が用意するか、あるいは都立施設として常設的に用意するかというようなことの検討も出てくるかと思えます。

それから、Gゲートから入っていきまされたけれども、それぞれのゲートと座席ゾーンの色がそれぞれ区分されています。これはエリアマップとの関係なんかも出てくるかと思えますけれども、これもあわせて、チケットの色でプリントされるもの、コンビニで出てくるか御自分でウェブサイトからプリントするかわかりませんが、そのあたりが明確になると比較的ストレートに行けるのではないかと思います。この辺もハード側だけの問題ではないので、それが少しずつ検討され、詰められてくるとよりわかりやすくなっていくのではないかと思います。

あとはエレベーター関係ですね。今日の中では新設ということですがけれども、エレベーターへの動線が現時点ではまだわかっていませんので、これも今後、メインゲートから来るのか、あるいは駐車場からのルートになるのか、駐車場の話しは現地で後半に出ましたけれども、位置の確認とかも含めて全体の調整、車いす使用者の座席数も増えますので、駅から来る人たち、あるいは自家用車で来る人たち、オリ・パラのときには自家用車はないのかもしれませんが、このあたりも含めてどこまで対応するか御検討いただければと思います。

○上山事業調整担当課長 高橋副委員長、ありがとうございました。

それでは、お時間が迫ってまいりましたので、ほかに御意見、御質問のある方がいらっしゃらなければこれで意見交換を終了させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、以上で意見交換を終了したいと思います。

最後に、委員長から一言御挨拶させていただきます。

萱場委員長、よろしくお願いたします。

○萱場委員長 委員の皆様、本日は、猛暑の中、長時間にわたる御視察、そして意見交換を行い、どうもありがとうございました。

現地視察ならではの貴重な御意見をさまざま承りまして、私どもはこれから本日いただきました議論を新設・既存施設共通の考え方につなげてまいりたいと考えております。

引き続き御指導、御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、最後に事務局から事務連絡をお伝えください。

どうもありがとうございました。

○上山事業調整担当課長　それでは、最後に事務局から事務連絡でございます。

本日、時間内に挙げられなかった御意見等を皆様お持ちだと思いますので、メールでいただければと考えております。期限が短くて恐れ入りますが、7月3日、火曜日をめぐに事務局までお送りいただければと思います。

また、本日、視察中にメモをとらせていただきまして、今机席にお配りしているのですが、こちらは事務局で活用させていただければと思いますので、申し訳ないのですが、机席にそのまま残していただければと思います。

それでは、以上で本日の議事は終了となります。

長時間にわたり御協力いただきまして、どうもありがとうございました。

午後5時30分閉会